



子ども大学かわごえ

# CUK だより

第36号 NO.120915

2012年12月28日

## 『パソコンを分解して学ぶ環境問題』

— 富士通(株)環境教育出前授業 —

日時：2012年9月15日(土) 14:00~16:00

教室：川越第一小学校 体育館

講師：環境本部 畠山義彦氏

サポーター： 同本部 高橋輝雄氏、高橋由紀子氏

去年に引き続き今年も畠山先生と両高橋先生に来ていただいて環境教育の授業をしていただきました。CUKからは6年生57名が参加して、保護者も加わって、持参いただいた15台のパソコンを囲んで授業を受けました。

ところでこの授業は、富士通(株)の次のような理念に基づいて行われるものです。

資源の枯渇を防ぐには、子どもたちを含めた一人ひとりが普段の生活を環境へ配慮した生活に変えていくことが急務です。省エネ、省資源へ取り組むためのキーワードである3R (Reduce、Reuse、Recycle) を理解し、実際にパソコンを分解することにより、パソコンの3Rへの取り組みを知ってもらいます。

パソコンの環境への取り組みを知ることにより、普段の生活の中で自分たちにできる環境配慮活動は何かを考え、行動を起こすためのきっかけとします。

このような理念に基づき、「3Rおじさん」に変装した畠山先生が、愉快的なマジックを交えながら、人間や生命が生きていくためには、地球環境を守っていかねばならないと地球環境問題について熱く楽しく語られました。その中で今回は特に「資源の枯渇」について、電化製品に使われる金属資源を考えるという観点から、3Rについて話されました。

- 3Rとは
- ☆ Reduce (リデュース)
  - ☆ Reuse (リユース)
  - ☆ Recycle (リサイクル)

リデュースは、石油の無駄使いやゴミを減らすこと、リユースは一度使ったものをもう一度使ったり、再生したりすることです。

リサイクルはもうご存知ですね。身の回りの消しゴムも、スナック菓子の袋も科学繊維の服も



みな石油からできていますが、石油の寿命はあと40年ほどです。

1年間に使われるレジ袋の量は、重ねると500kmにもなり、これはスペースシャトルの飛行高度と同じ高さまで積み上げられることとなります。レジ袋のプラスチックも石油から作られるわけですが、一枚につき約17mlが使われて、レジ袋だけで、1年間に使われる石油の量は日本全体で使う石油の量に匹敵するそうです。またペットボトル（これも石油）は一年で250億本売られているそうですが、水筒を利用するなど各自のエコへの工夫が必要ですね。



パソコンは年間750万台捨てられるそうですが、これを一列に並べてみると、北海道から九州まで往復する距離になるそうです。

本日の講座では、15台のパソコンが並べられ、講義のあと、子どもと保護者がパソコンを取り囲んで、畠山先生のレクチャーにそって、パソコンのケースをはずし、電源コードを外し、CPUをはずし、メモリーをはずし、基盤を外して、はい、分解終了。

分解した部品は鉄、金、銅、プラスチック、ニッケルなどに分けられ、みんなのよく知っているスプーン（鉄）、10円だま（銅）ネックレス（金）ニッケル（1円玉）など様々なものに再利用されます。みんなでどの部品が何に再利用されるのか考えました。講義が終わって、みんながパソコンをもう一度組み立てました。

まだまだ暑い中でしたが、体育館をお貸しいただいた第一小学校の伊藤明校長先生や富士通の皆さんと楽しく学びの時間を過ごしました。

#### 本日のプログラム

区分	項目	時間	内容	使用機器等
導入	資源枯渇ってなあに？	15分	エネルギーやレアメタル等の資源枯渇の現状について学ぶ	・PC+プロジェクタ+スクリーン
	3Rってなあに？	15分	環境負荷を減らすための活動である3Rについて学ぶ	・PC+プロジェクタ+スクリーン
展開	パソコンを分解してみよう	30分	・パソコンの説明と、いらなくなったパソコンの行き先についての問題提起。 ・各班でごとに、パソコンを生徒が分解	・パソコン実機(10台) 1班で1台
	パソコンの3Rを考えてみよう	15分	・各班で、その部品が何にリサイクルされるかを考え、発表する。 ・パソコンの部品の3Rへの取り組みを学ぶ。	・リサイクルセット(うちわ、10円玉、1円玉、スプーン、金のネックレス、木のおもちゃ、メモ帳、磁石)×11セット ・ノートパソコン(省資源化説明用)
	リサイクル・センター	5分	リサイクル・センターのビデオを見て、センターでの仕事を理解する。	・PC+プロジェクタ+スクリーン ・3Rパンフレット配布
まとめ	私たちの3R	10分	・自分たちにできる3Rは何かを考えてもらう	

おま け	パソコンを組 み立てよう	30分	・各班で、生徒がパソコンを組み立てる	・PC+プロジェクタ+スクリーン
---------	-----------------	-----	--------------------	------------------



パソコン分解環境授業集合写真

## スポーツ実技授業『タッチラグビー』

日時 2012年9月13日(土)

講師 ジャパンタッチラグビー協会

理事長 口元周策氏

場所 東洋大学 川越キャンパス ラグビー場

好天に恵まれ、日本体育大学学生のアシスタントに協力してもらい、30人近い学生たち(4年生)は思いっきりラグビー場を走り回り、すっかり授業を楽しみました。

今回は正式には4年生を対象にした授業でしたが、お兄さん・お姉さんに付き添ってきた2～3年の子どもに声をかけて、参加をしてもらったところ、アシスタントのお兄さん、お姉さんがよく面倒をみてくれたので、十分楽しく参加していました。

練習や試合の様子を見ているうちに気づいたことは、大喜びで走り回っている子どもたちが、試合になると試合に勝ちたいという気持ちが働いてきたようです。感想文を見ると、10歳になるかならないかの小学生でも試合に勝たか闘争本能があることがわかりました。スポーツ闘争心・競争心を刺激することかと再認識闘争心をよい方向へ導びき、生きる力を育成んな平等では活力がわかりません！「生き方学」がありますが、生きる力を育てるせん。



ったと書いているので、子どもにも一つが待つ一つの長所が人間の持つしました。この子どもたちが持つ闘争することが大切だと思いました。みCUCの教育基本方針の一つに「生」という意味で大事なこともかもしれま

子どもたちは2時間の間にみんな仲良くなったようです。口元理事長が引率されたアシスタントの諸君が子どもたちの面倒をよく見てくれたので、子どもたちも大変楽しかったようです。このタッチラグビーの授業は4年生が対象でしたが、この時期は学校行事とバッティングすること

が多いため定員の半分近くが欠席者でした。子どもたちの感想文を読むと、1回だけではルールも十分呑み込めないところがあったし、楽しかったからぜひもう一度やりたいという希望がありました。今日借用したラグビー場が来年も使用できるのであれば、収容能力がかなりあるので、来年の授業では5年、6年生の希望者も受け入れることにしたいと考えます。

## フィールドワーク 「狭山丘陵の秋を楽しもう！」

**日時** 2012年10月27日(土) 14時～16時  
**講師** 早稲田大学 所沢キャンパス  
環境調査室 大堀聡先生  
**場所** 早稲田大学 所沢キャンパス

27日(土)は好天に恵まれ楽しい授業となりました。昨年度は全員が楽しみにしていたのですが、雨のため中止となり、無念の涙をのみました。今回私たちは小学4～6年生学生31人、保護者4名、スタッフ数人、合計40人ほどが大型バス1台に乗り込んで12時に川越を出発しました。予定通り2時前に早稲田大学へ到着し、大堀先生と助手の方の出迎えを受けました。

早稲田大学のキャンパスは大変広く、大堀先生のご案内で森の中を散策しました。森のところどころに茶畑や畑や田んぼがあり、沢山の種類の植物や虫が見つかりました。大堀先生がビンゴを考えておられて、子どもたちはあの木この花と見つけては、ビンゴのカードに穴を開けていきました。途中でアナグマの「ゴロちゃん」が飼われているを見つけました。森の中を通り抜けると、開けた丘があり、全員で記念撮影をしました。その隣の森がみんなよく知っているトトロの森で、赤い鳥居の神社がありました。



今日のフィールドワークは、好天に恵まれ、大堀先生の適切なお案内で子どもたちは大喜びでした。最後に何人かの子どもは先生からザリガニのお土産もいただきました。

子どもたちの感想では、アナグマのゴロちゃんがかっこよかった、田んぼの中にかかっている木の橋(道)が歩くとミシミシしてこわれそう、木の枝にぶら下がっているブランコに乗ったけれど乗り心地が悪かった/よかった、トトロの森がすぐ隣にあるのを知らなかった、早稲田大学は自然をしっかり守っている、また来て遊びたい!などの感想でした。

子どもたちの好評に応じて来年もまたお邪魔をしたい大堀先生へ申し入れ、快諾をいただきました。楽しいフィールドワークでした。

### 子ども大学かわごえ (CUK)

学長 遠藤克弥

事務局

NPO法人子ども大学かわごえ

〒350-1109 川越市霞ヶ関北 3-12-6

霞ヶ関北自治会館内



H-P <http://www.cuk.or.jp>

TEL 080-2053-2991 (事務局直通)

FAX 049-233-1640F

E\_MAIL [info@cuk.or.jp](mailto:info@cuk.or.jp)